平成24年9月1日
9月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
岡崎市学校保健会医部会
常任幹事
糸洲　朝久氏
この人に聞く …… 2
第二期岡崎の歌姫
Wish Vocal School講師
大須賀さと子氏
羅針盤 …… 2
書写指導員　武田　玲香
ふれあい …… 3
大樹寺小　鈴木　大介
特　集 …… 4
地域防災は今
～岡崎市の防災対策～
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー … 8
「七凹八凸の碑」除幕式
この本を …… 8

教育随想

生き方を考えた夏

岡崎市学校保健会医部会
常任幹事
糸洲　朝久　氏

子供たちにとって長い夏休みが終わり、二学期が始まりました。夏休みと言えば、多くの小中学校で自由研究が課題となっています。子供も大変ですが、親にとっても大変なことは、皆さん経験がおありのことと思います。私も、小中学生の三人の男の子がいて、毎夏、自由研究では子供同様、頭を悩ませます。

今年は、家族でグアムに旅行することになり、それなら自由研究はグアムと日本に関連したものにしようということで、軽い気持ちで現地の「グアム戦跡ツアー」に参加したわけです。

アメリカ占領地だったグアムは、太平洋戦争開戦とほぼ同時に日本に占領されました。それで、終戦までの四年間、日本の占領とアメリカの奪還で、激しい戦場と化します。戦跡ツアーでは、その爪痕としての壕やトーチカ、記念碑などを巡るのですが、それぞれの場所の様子とツアーガイドのおじさんの熱い語りに、私たちはどんどん引き込まれていきました。戦争そのものは無謀かつ間違いであったけれども、退路を断たれ、援軍もなく孤立した島で、とにかく祖国のためと玉砕していった日本兵の戦いを、ガイドさんは戦ったアメリカ軍人からの聞き取りを基に再現してくれました。また、戦前からここに住んでいた住民の悲惨さや、本当の戦地には客を案内しない大手ツアーへの苦言も聞き、たくさんの方が亡くなった壕の前に線香を手向けてきました。

実は、この旅行には、自由図書の本も持参していました。黒柳徹子さんのユニセフ親善大使時代の、アフリカやアジアの訪問記です。内戦、飢餓、干ばつなどで苦しむ人々の姿を読むにつれ、私たち大人の責任と反省を強く感じました。

「お父さんは、正しい生き方を見せないとね」なんて、重い重い枷（かせ）を課されることになった夏休みでした。

（いとす　ともひさ）

歌姫となってできたこと

第二期岡崎の歌姫
Wish Vocal School 講師
大須賀さと子　氏

「歌姫となったことで、人間関係がとても広がりました。」と笑顔で語る大須賀さん。

中学二年生の時、世界的なバイオリンのコンクールで優勝した中学校の先輩の演奏を聞き、憧れをもった。五歳のころからピアノを習っていたが、志したのは声楽科だった。高校も大学も音楽を専攻した。

「ふるさとを離れても、音楽を学べることに楽しさを感じていました。将来も音楽関係の仕事に就きたいと思っていました。」

大学卒業後は、東京中野の音楽教室に勤めた。しかし、二十五歳の時、岡崎にいる母親が病気で倒れた。それが人生の転機となった。

「『岡崎に帰ってきてほしい』と言われたのです。田舎に帰ったら自分の夢はどうなるのだろうと、不安になりました。都会で歩み始めた音楽の道をこのまま続けたい思いが強くありましたから、真剣に考えましたね。私の出した結論は、東京で何か形にしたいということでした。父親に決意を伝え、ピアノの弾き語りを始めました。」

一年間だけ東京で活動し、地元に帰ってきてからは、豊橋を拠点に路上ライブを続けた。

「岡崎の歌姫オーディション担当の方が偶然私のライブを見てくれていたのです。初めは全く興味はなかったけれど、歌姫の特典としてCDを全国発売するというので、それが魅力で、オーディションの誘いを受けました。」

第二期岡崎の歌姫となり、プリンセス岡崎選考会へのゲスト出演など、岡崎市での様々なイベントでアーティストとしての活動場面が広がった。

「Wish Vocal School の立ち上げに関わることができたのも、歌姫となって知り合った人から頼まれたからです。それからは、いっきに人間関係が広がっていきました。岡崎の歌姫となったおかげです。」

ボーカルスクールには、目的も年齢も様々な人が通う。そこでの人との関わりから、自分の方向性が変わってきたと言う。

「ずっと演奏者としてやってきて、メジャーデビューを目指していました。人より秀でることが成功の形だと思っていたのですね。でも、たくさんの人と関わる中で、人それぞれに良さがあり、必要とされて生きていることを大事にしたいと思うようになったのです。」

歌姫になったことで、母校である東海中学校で歌う機会があった。

「私は『この世に必要のない人間なんていない』をテーマに歌を作っています。中学校で歌ったことをきっかけに、歌を通して私のテーマを若い子に届けたいと強く思ったのです。歌の先生になりたいのではなくて、歌を通して自分の思いを伝えていきたい。」

歌姫となり、歌う機会と人間関係を広げた。今、やりたいことが心の中で鮮明になっている。

最後に素敵な笑顔で語ってくれた。

「地元がすごく好き。自分の生まれ育った土地で人間関係ができて、可愛がってくれる人がいる。ここ岡崎で働くことをとても誇りに思っています。」

これからも、大須賀さんの強い思いが歌声にのって岡崎の地に広がっていくであろう。

（氏　名　おおすか　さとこ
生年月日　昭和五十二年七月二十一日
住　所　岡崎市欠町）

「見てほしい持ち方」の子供

書写指導
武田　玲香

サラサラサラ。鉛筆と紙がこすれ合う乾いた音が、教室に響く。

「持ち方はいいかな。三角持ちをしていないと指がうまく動かないよ。」

A先生の言葉に、ぬり絵をやめて鉛筆を持った手をひっくり返す子供たち。三本の指の形をじっと見つめるその顔は、真剣そのものである。

「先生、見て。ブドウがうまくぬれた。鉛筆、ぐるぐる動かせるよ。」

いつの間にか子供の手元は、「見てほしくない持ち方」から、「見てほしい持ち方」に変わっている。

B先生は、特別に時間を取れないときでも、自分の持ち方を意識できる機会を設定するよう工夫した。

「プリントに名前を書くときは、必ず自分の持ち方を確かめよう。そうすれば、一日に何回か直せるよ。」

「今日、三回目のチェックだよ。」

A男に宿った大樹寺魂

大樹寺小　鈴木　大介

昭和五十七年から続く大樹寺小学校の伝統「野外劇　家康の自立」。時代とともに少しずつ形を変え、現在では、野外劇の中に組み立て体操を取り入れ、運動会の五、六年生の演技として引き継がれている。家康の「まなぶ・やさしい・がまんする」の三つの心を大樹寺魂とし、その魂が籠った演技を目指す。

四月。劇の役を決めるオーディションが行われた。「自分に合った役に、勇気をもって挑戦してほしい」と子供たちに伝えた。優しく大らかな性格で、人前に出ることが苦手なA男が、祖洞和尚役に立候補した。祖洞和尚とは、七十人力の怪力で、家康を守った僧侶である。これはA男のよさを引き出すことができるよい機会だと直感し、A男に祖洞役を任せることにした。大役を任され、不安な表情を見せたA男だが、「頼むぞ」という私の言葉に、ゆっくり息を吸いこんで「はい」と返事をした。

五月に入り、練習が始まった。十人ピラミッドは、何度やっても踏ん張り切れず、崩れてしまっていた。上の子が落ちて、ひやっとしたこともあった。成功させるためにクラスで話し合いも行った。「とにかくがまん」「やるしかない」と声は出たものの完成には至らなかった。

祖洞役のA男は十人ピラミッドの後に登場する。A男は着替えのため十人ピラミッドには参加することができない。しかし、A男は十人ピラミッドの練習の時間、欠席した仲間や見学している級友の代役として、進んで土台になったり、声をかけたりした。

本番が近づき、全体の士気をさらに高めたいと思い、みんなのために力を尽くすA男に思いを語らせた。「最後の運動会で、みんなが痛いのを我慢して、ピラミッドを立てようとすごく耐えているのに、本番、自分は声をかけることも、土台になることもできないし、ただ見守ることしかできないのが辛い。みんなが頑張っている分、自分は祖洞を頑張ろうという気持ちになる。」

「辛い」という言葉に驚いたが、その熱い思いが、仲間に伝わった。少しずつ暗雲が去るように、「痛い」「無理」という仲間の言葉が、「頑張れ」「大丈夫」という言葉に変わっていった。

運動会当日。十人ピラミッドは全組完成。仲間の成功を見届けたA男は祖洞和尚になりきり、勇ましい演技を披露した。演技を終えると、「いつもならやっと終わったと思うけど、今年は、もうこのメンバーでできないと思うと寂しい。友達との絆（きずな）が分かった。」と、A男は語った。その周りを仲間が取り囲んでいた。

家康の人生の転機となった大樹寺の陣。その地で家康の精神を学ぶ大樹寺っ子。A男たちが「大樹寺魂」を胸に、ここを巣立ってくれることを期待している。

意識しないと自分の癖が出てきてしまうので、それを修正する機会は一回でも多い方がよい。

C先生は、黙って、手元だけを写した数枚の写真を提示した。

「あっ、この親指はDちゃん。」

「こっちの持ち方はE君だ。」

次々に手の主を当てていく子供たち。それは同時に、自分の持ち方がこんなにも人に見られているということを自覚する機会でもあった。

正しい持ち方の習得には「意識」「知識」「技能」の三方向から迫るのがよい。「意識」は、持ち方に関心をもち、正しく持とうと思うこと。「知識」は、三本の指の役割や「正しく持てば、整えて、速く、疲れずに書ける」という利点を知っていること。「技能」は、三本の指に均等に力を加え、自在に動かせるように訓練すること。特に、この技能訓練が十分でなかったため、正しく持てない子供が増加したと考えられる。

鉛筆の持ち方指導に力を入れるようになって三年目。根気よく取り組んだ学校は着実に成果を上げている。鉛筆の持ち方は、子供の一生に関わることである。我々教師はそういう自覚を持ち、「先生、見て」と胸を張って言える子供を育てていきたい。

地域防災は今
－岡崎市の防災対策－

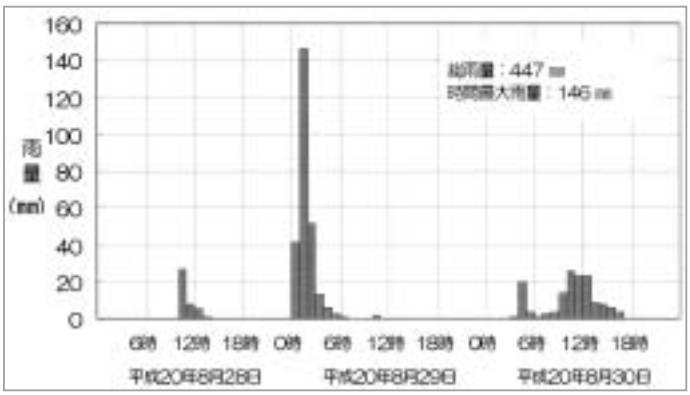
▲ 岡崎市地域総合防災訓練（初期消火訓練）

平成二十年八月二十九日、深夜一時から二時にかけて、岡崎市を中心とする地域を、毎時一四六・五ミリの大豪雨が襲った。岡崎市は、平成十二年の東海豪雨と併せて、ここ十年で二度もの大きな浸水被害を受けている。愛知県は、平成十四年に乙川圏域河川整備計画を作成し、伊賀川を含む乙川水系の中長期に渡る整備を進めてきた。本市でも、地震災害への対策として、小中学校など公共施設の緊急地震速報装置の整備や、情報伝達をより迅速にするための防災緊急メール「防災くん」の配信サービスを平成二十三年三月に新設するなど、情報システムの整備に努めてきた。

阪神淡路大震災や昨年の東日本大震災など、自然は人間の想像を絶する猛威を振るうことがある。こうした災害による被害を最小限にするために、行政による防災対策の整備は不可欠である。しかし、それ以上に、住民一人一人が日頃から災害に備え、近隣の住民と力を合わせる「自主防災」の意識をもつことが重要である。そこで岡崎市は、毎年九月に菅生川原で行っていた総合防災訓練を、三年前より地域防災訓練に移行してきた。今や、自然災害に対して、「自分の命は自分で守る時代」、「自分たちの地域は自分たちで守る時代」へと変わりつつある。

震災や豪雨災害を機に、自主防災に向けて気運が高まっている。自主防災活動をより有効にするために、地域の会合や防災訓練を通じて、組織体制の見直しを行いつつ、各自が地域における役割を自覚することが大切である。

過去の教訓〈平成二十年 八月末豪雨〉



▲ 平成20年8月28日～30日までの時間降水量
※出典：http://www.city.okazaki.aichi.jp

▲ 浸水した町（六名新町）

平成20年8月末の岡崎大豪雨は、1時間の最大雨量が146.5ミリを超え、2人の尊い命を奪うと共に、3000棟を超える家屋が浸水するなど、甚大な被害をもたらした。

岡崎市の防災対策〈防災情報システムの整備〉

▲ 岡崎市消防本部通信指令室

▲ 防災備蓄倉庫（平成24年度に市内全47小学校への配備完了）

◆おかざき防災緊急メール「防災くん」

地震情報や警報情報・土砂災害警戒情報・避難情報など、８種類の防災関連情報から希望の情報を選択し、メールを受け取ることができるサービスである。
(entry@city.okazakibosai.jp)

医療救護所　設置箇所

連尺小学校　城南小学校　大門小学校
矢作東小学校　矢作北小学校　矢作西小学校
矢作南小学校　北野小学校　六ツ美北部小学校
六ツ美南部小学校
※震度６弱以上で市内10校に設置

医療救護所では、医師、薬剤師、看護師などで編成された救護班が負傷者に応急処置を行う。

自主防災の活動

▲ 初期消火訓練

９月２日の岡崎市地域総合防災訓練以外に、６月23日に震度６強の地震を想定し、羽根北町防災訓練が行われた。小中学生を含め、200人以上の町民を集め、集団避難訓練や要援護者の安否確認、初期消火訓練など、各種訓練が実施された。

▲ 心肺蘇生講習

▲ 炊き出し訓練

▲ 子供の消火訓練

▲ 起震車による地震体験

その時に備えて〈自主防災の組織体制例〉

防災マップの作成や、高齢者・障害者・外国人の把握など、災害発生に備えて平常時の役割をもつことによって防災活動がスムーズになる。

お知らせ

●教育最新情報

○授業力・教師力アップセミナー【基礎編】

◆生活（8／2　ぬかた会館）

平國亮子教諭（城南小）と二村帆波教諭（三島小）の実践報告を受けた後、中部学院大学の加納誠司准教授を講師に、「思考と表現の一体化を目指した生活科授業の創造」について研修した。言語活動や表現活動を充実させるためには、体験を充実させることが必要であることを学んだ。

◆音楽（8／3　総合学習センター）

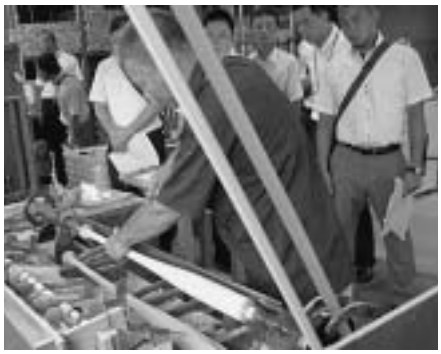
岡崎文化協会芸能部会長・高橋傳次郎先生を講師に、郷土民謡「正調五万石」の歌唱と三味線伴奏について研修した。

民謡独特の発声法に戸惑いつつも、響きや余韻にどこか懐かしさを感じながら、次第に先生の節廻しについて伸びやかに歌えるまでに上達した。

矢作川が水運として機能した家光の時代、上り下りの船頭による舟唄が始まりだと、その歴史にもふれられ、岡崎の心の醸成を育む実践への意欲を更に高めることができた。

◆技術・家庭科〈技術分野〉（8／3　株式会社白惣西塚工場）

豊川市の木製バット工場に赴き、一連の製造行程を見学した。職人が巧みに刃物を操り、木材を削っていく。熟練した技によりバットに命が吹き込まれていく様は圧巻であった。受け継がれる技と知恵がものづくりを支えていた。ものづくり学習の新たな可能性が見えた研修となった。



●表　彰

◆ジュニアオリンピックカップ全国中学生カヌー大会

男子カナディアン一人乗り
二位　新香山中三年　綿　幹弘
男子カナディアン二人乗り
三位　新香山中三年
谷口冬弥　高倉啓輔
女子カヤック二人乗り
優勝　新香山中三年
髙坂晴香　河合舞果
二位　新香山中三年
鈴木さくら　倉橋美帆
三位　新香山中三年
吉竹紗矢栞　河澄さくら
女子カヤック四人乗り
優勝　新香山中三年
髙坂晴香　河合舞果
鈴木さくら　倉橋美帆
女子カヤック一人乗り
三位　新香山中三年　髙坂晴香

◆国民体育大会第33回東海ブロック大会カヌー競技

少年少女カヤックペア
優勝　新香山中三年　髙坂晴香
（第33回国民体育大会に愛知県代表として出場）

◆第19回愛知県中学校カヌー大会

男女総合優勝　新香山中
女子総合優勝　新香山中
男子総合三位　新香山中
男子カナディアン一人乗り
優勝　新香山中三年　綿　幹弘
女子カヤック一人乗り
優勝　新香山中三年　髙坂晴香
女子カヤック二人乗り
優勝　新香山中三年
髙坂晴香　河合舞果
女子カヤック四人乗り
優勝　新香山中三年
髙坂晴香　河合舞果
鈴木さくら　倉橋美帆

◆愛知県中学校総合体育大会

バレーボール男子の部
三位　矢作北中学校

バレーボール女子の部
優勝　竜海中学校

バスケットボール男子の部
優勝　六ツ美北中学校

弓道男子団体
優勝　額田中学校

剣道男子個人
優勝　矢作北中三年　塩屋裕斗

水泳競技の部
男子総合三位　東海中学校
男子四〇〇メートルメドレーリレー
優勝　東海中学校
磯部太一　松田健吾
渡辺　輝　河合諒哉

陸上競技の部
男子三〇〇〇メートル
優勝　東海中三年　鈴木貴博
男子砲丸投
優勝　甲山中三年　戸澤廣哉
女子二〇〇メートル
優勝　矢作北中三年　松本扶弥

◆第34回愛知県中学生相撲大会

個人の部
二位　矢作中二年　白藤聖陽

◆ファミリーマートカップ第32回全日本バレーボール小学生大会愛知県大会

男子三位　竜美丘小学校

◆第42回愛知県野生生物保護実績発表大会

県知事賞　生平小学校
県教育委員会賞　宮崎小学校
河合中学校

第65回岡崎市中学校市長杯総合体育大会・岡崎幸田支所予選会

種目	性	優勝	第2位	第3位
陸上競技	男子	岡崎南	竜海	矢作
	女子	岡崎南	六ツ美	六美北
バスケットボール	男子	六美北	城北	美川	甲山
	女子	六美北	甲山	葵	竜南
バレーボール	男子	矢作北	矢作	六ツ美	東海
	女子	岡崎南	竜海	矢作	六美北
ソフトテニス	男子	河合	六美北	美川	矢作北
	女子	幸田北	六美北	美川	幸田
卓球	男子	幸田北	岩津	幸田	六ツ美
	女子	岡崎北	額田	幸田	矢作北
新体操	女子	岡崎南	東海	
剣道	男子	矢作北	矢作	岡崎南	竜海
	女子	矢作北	矢作	竜南	岡崎北
ハンドボール	男子	竜南	美川	葵
	女子	美川	六美北	
軟式野球	男子	城北	甲山	岡崎南	六美北
ソフトボール	女子	竜海	矢作	城北	岡崎南
柔道	男子	矢作	矢作北	竜南	岡崎北
	女子	岡崎北	六美北	矢作北
サッカー	男女	甲山	岡崎南	葵	竜南
水泳	男子	矢作北	矢作	東海
	女子	岩津	矢作	竜海
弓道	男子	額田A	幸田北A	幸田北D
	女子	幸田D	幸田南A	幸田A

第65回岡崎市中学校市長杯総合体育大会の最終結果

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
男子総合	矢作北	矢作	六美北	岡崎南	甲山	六ツ美
女子総合	矢作	岡崎南	六美北	矢作北	岡崎北	竜海
男女総合	矢作	矢作北	岡崎南	六美北	甲山	岡崎北

個人競技（1位のみ）

種目	男子	学校	女子	学校
弓道	石原　秀彦	額田	稲吉　栞名	幸田
ソフトテニス	三輪・松田	六美北	安藤・鍋島	美川
卓球	平野　光起	幸田北	高原　夏稀	額田
剣道	塩屋　裕斗	矢作北	小早川未佳	岡崎北

陸上競技

性	種目	氏名	学校	記録
男子	1年100m	豊田　智大	六ツ美	13"0
	100m	佐藤　将人	岡崎南	12"2
	200m	水鳥　蒼士	城北	24"5
	400m	西田　悠人	竜南	54"2
	800m	渡邊寿希也	矢作	2'04"8
	1年1500m	大河原丈季	甲山	4'44"9
	2年1500m	山下　和希	岡崎南	4'29"2
	3000m	鈴木　貴博	東海	9'39"1
	110mH	大竹　哲司	竜南	16"3
	4×100mR	中田③　関井② 成田③　野村③	竜海	46"5
	低4×100mR	澤井②　丹羽① 宮崎①　大久保②	岡崎南	48"7
	四種競技	平岩航太郎	岡崎南	1748点
	走り幅跳び	戸北　紘司	城北	6m27
	走り高跳び	二村　哲生	矢作	1m70
	砲丸投げ	戸澤　廣哉	甲山	新 12m15
	棒高跳び	細井　駿作	岡崎南	3m60
女子	1年100m	山本　里菜	六美北	13"6
	100m	野中 あおい	新香山	13"1
	200m	松本　扶弥	矢作北	27"3
	1年800m	宇野　佑紀	常磐	新 2'24"8
	800m	山本　怜奈	六ツ美	2'26"7
	1500m	近藤　佑香	東海	5'01"3
	100mH	杉浦　真穂	六美北	15"7
	4×100mR	阿野②　松本③ 髙木③　鈴木③	矢作北	51"6
	低4×100mR	山本②　水上① 杉田①　足立②	城北	54"1
	四種競技	加藤　彩	城北	新 2145点
	走り幅跳び	正村　菜々	美川	5m25
	走り高跳び	浅井さくら	城北	1m51
	砲丸投げ	河合紗里奈	美川	10m68

記録欄の「新」は、新記録の意味

水泳競技

種目	男子 氏名	男子 学校	男子 記録	女子 氏名	女子 学校	女子 記録
50m自由形	石川　史弥	矢作北	27"43	杉町　侑香	岡崎北	29"47
100m自由形	岡田　恵輔	矢作	59"79	千明　帆風	城北	1'03"11
200m自由形	菅田　慎悟	矢作北	2'11"94	加藤　七海	竜海	2'27"38
400m自由形	岩本　直也	矢作北	4'26"93	菅田　佳穂	矢作北	4'55"47
100m平泳ぎ	近藤　巧麻	矢作北	1'11"30	佐々木梨湖	岩津	新 1'18"73
200m平泳ぎ	神谷　洸将	矢作	新 2'32"74	余合　結	矢作北	新 2'44"74
100mバタフライ	渡辺　輝	東海	1'04"82	野村祐梨恵	竜南	1'13"95
200mバタフライ	河合　諒哉	東海	2'17"74	大久保　杏	竜海	2'43"07
100m背泳ぎ	磯部　太一	東海	1'08"15	近藤　朱利	甲山	1'11"07
200m背泳ぎ	脇田　恭至	矢作	2'29"23	宮島　夏希	矢作	新 2'29"04
200m個人メ	中濱　亮太	城北	2'22"21	大竹　舞	幸田	2'37"10
400mR	岩本　菅田 後藤　石川	矢作北	4'02"91	石川　菅田 余合　野澤	矢作北	4'28"32
400mR メドレーリレー	磯部　松田 河合　渡辺	東海	4'24"96	戸村　近藤 大久保　加藤	竜海	4'57"02

記録欄の「新」は、新記録の意味

柔道

性	階級・部門	氏名	学校	性	階級・部門	氏名	学校
男子	50kg級	原田　崇裕	矢作	女子	40kg級	杉浦　美南	六美北
	55kg級	齋藤　廉也	幸田南		44kg級	田中　青波	六美北
	60kg級	神谷　猛	矢作		48kg級	野村　若那	岡崎北
	66kg級	太田壮一郎	竜南		52kg級	野村　侑希	岡崎北
	73kg級	古波蔵幸平	矢作北		57kg級	武田　美玖	竜南
	81kg級	佐藤　司	矢作		63kg級	深野　莉帆	岡崎北
	90kg級	時川　翔平	矢作北		70kg級		
	90kg超級	藤野　拓也	竜海		70kg超級	鈴木　空子	岡崎北

新体操

種目	女子	学校
個人総合	挾土　沙詠	岡崎北
クラブ	挾土　沙詠	岡崎北
リボン	挾土　沙詠	岡崎北

平成24年度岡崎市小学校体育大会

種目	性	優勝	第2位	第3位
ソフトボール	男子	井田	梅園	六ツ美南部	上地
	女子	梅園	矢作南	大門
バレーボール	男子	竜美丘	六ツ美南部	上地	矢作東
	女子	連尺	細川	根石	六ツ美南部
バスケットボール	男子	男川	六ツ美北部	羽根	六名
	女子	竜美丘	六ツ美北部	男川	福岡

種目		性	優勝	第2位	第3位	
サッカー		男女	六名	根石	福岡	細川
水泳	北ブロック	男子	井田	矢作北	矢作東	
		女子	矢作西	井田	大門	
	南ブロック	男子	本宿	福岡	六ツ美中部	
		女子	美合	本宿	上地	

水泳競技（個人・1位のみ）

【南ブロック】三島小プール

種目	男子 氏名	男子 学校	男子 記録	女子 氏名	女子 学校	女子 記録
5年50m自	三浦　空竜	緑丘	32"7	岩渕　百花	美合	35"8
6年50m自	荻野　年貴	本宿	36"5	宮坂祐里佳	三島	33"5
6年100m自	高木　一輝	美合	1'09"5	小柳　怜香	上地	1'13"2
6年100m平	月見里祥真	本宿	1'31"3	羽根田　琴	六ツ美北部	1'30"2
5年50m背	簗山　稜平	小豆坂	44"0	金澤和桜子	美合	47"5
6年50m背	漆山　真	六名	36"5	田邊　純渚	本宿	36"2
6年25mバタ	竹下　和輝	小豆坂	16"8	片田　流菜	福岡	16"4
5年50m平	松居　智規	羽根	41"6	大本　采佳	竜美丘	45"4
6年50m平	織田　海斗	福岡	38"7	深谷　愛実	六名	47"7
200m メドレーR	服部、織田 野村、筒井	福岡	2'35"8	齋竹、齋藤 田邊、上川	本宿	2'40"8
200mR	野村、北山 筒井、織田	福岡	2'20"9	上川、齋竹 村瀬、田邊	本宿	2'25"0

【北ブロック】井田小プール

種目	男子 氏名	男子 学校	男子 記録	女子 氏名	女子 学校	女子 記録
5年50m自	田中　一颯	細川	35"7	杉町　瞭香	大樹寺	32"2
6年50m自	山本　勇帆	井田	31"6	近藤　夏実	矢作北	34"9
6年100m自	長尾　圭祐	矢作東	1'17"0	浅岡　小粋	広幡	1'06"3
6年100m平	安井　颯翼	矢作北	1'27"9	繁原ひなの	井田	1'26"9
5年50m背	加納　圭将	大門	40"8	久田　麻白	大門	36"9
6年50m背	牧　一翔	広幡	36"3	山村　夏実	井田	新33"2
6年25mバタ	岩瀬悠乃介	岩津	16"2	菱田　友理	矢作東	16"7
5年50m平	永井　豪	矢作北	39"5	江坂　仁美	矢作南	41"2
6年50m平	近藤　皇我	梅園	36"1	森　明日香	根石	44"7
200m メドレーR	橋本、安井 永井、大河内	矢作北	2'30"4	山村、繁原 酒井、木場	井田	2'32"2
200mR	橋本、上田 安井、永井	矢作北	2'18"8	木場、酒井 繁原、山村	井田	2'14"6

記録欄の「新」は、新記録の意味

フォトヒストリー 岡崎の教育

「七凹八凸の碑」除幕式

（昭和50年）

写真提供：矢作東小学校

昭和四十九年、本校の卒業生で仏教考古学者の石田茂作氏が、文化功労者として顕彰された。「これを機に碑を建てたいから、文字を書いてほしい」と学校やＰＴＡ関係者が懇願したところ、氏は「七凹八凸」と大書された。これを大きな石に刻み、翌昭和五十年に建立されたのが「七凹八凸（しちおうはっとつ）の碑」である。現在、この碑は「ふれあいの庭」にどっしりと置かれ、傍らで学ぶ矢東っ子を静かに見守っている。

「七凹八凸」は「七転八起」に類似した意味で、石田氏の「どんな苦しみやつまずきにあっても、克己勉励してほしい」という願いが込められている。

先輩が後輩に託した思いは、各学校にさまざまな形で残されている。それらに光を当てて思いを知り、子供たちに語り伝えたいものである。

・カット　六ツ美中　**土井誠司**

オアシス

「岡崎で働くことに誇りをもっている」と言う大須賀さん。一度は都会に出て、地元に戻ることに不安を抱いた彼女は、第二期歌姫となったことで意識が変わった。今、彼女を支えているのは、これまでに大切にしてきた人との関わりだろう。

目の前の子供たちも、これからの様々な人との関わりを通して、岡崎を愛する心を育んでほしい。

震災国日本。記録に残る歴史は古く、紀元前四～三世紀にマグニチュード9クラスの地震が、三陸から房総にかけて発生した可能性を示している。地震が頻発する日本列島で、祖先は何度も大震災に見舞われ、その度に知恵と汗をふりしぼり復興を遂げてきた。

子供たちの未来を守るためにも、今、ＥＳＤを見据えた防災教育の在り方が問われる。

暑い日射しの中、額の汗を拭いながら子供たちが夏野菜の世話をする。「水をやると、キュウリが毎日伸びるよ」とうれしそうに教えてくれた。八月、トマトは赤く色づき、キュウリは食べきれないほど収穫できた。水と光を浴びて生長していく野菜たち。そこに子供たちの姿が重なる。

学校に子供たちが戻ってきた。背を伸ばし、真っ黒に日焼けした姿が眩しい。

「スイッチョン、スイッチョン。」声の主はウマオイか。残暑厳しい季節であるが、夜には秋の虫たちの声が心地よい。

ロンドンオリンピックでの日本人選手の活躍に、心を踊らせた今年の夏。夕刻の涼しい風が、私たちに優しくそよぐ。熱く燃えたこの夏に感じた、世界の一体感。実りの秋を迎え、世界中に平和が訪れることを心から願う。

この本を

＊霖雨　葉室　麟
　PHP研究所　¥1,785

＊学ぶとはどういうことか　佐々木　毅
　講談社　¥1,260

＊海を感じなさい。　渡辺　憲司
　朝日新聞出版　¥1,155

＊夢みる科学　佐治　晴夫
　玉川大学出版部　¥1,470

＊丘の上の邂逅（かいこう）　三浦　綾子
　小学館　¥1,470

大学生のころに読んだ『塩狩峠』は，私にとって衝撃的な作品で，「生き方」について考えさせられたことを覚えている。

本書は，三浦綾子生誕90年を記念して刊行されたエッセイ集。旭川の厳しい自然や闘病生活，数々の邂逅を通して培われた「生きる」ことへの思いが語られる。

没後10年以上を経た今もなお，筆者の鋭い洞察力とやわらかな感性が，みずみずしく心に伝わってくる。

竜谷小　中村　公治